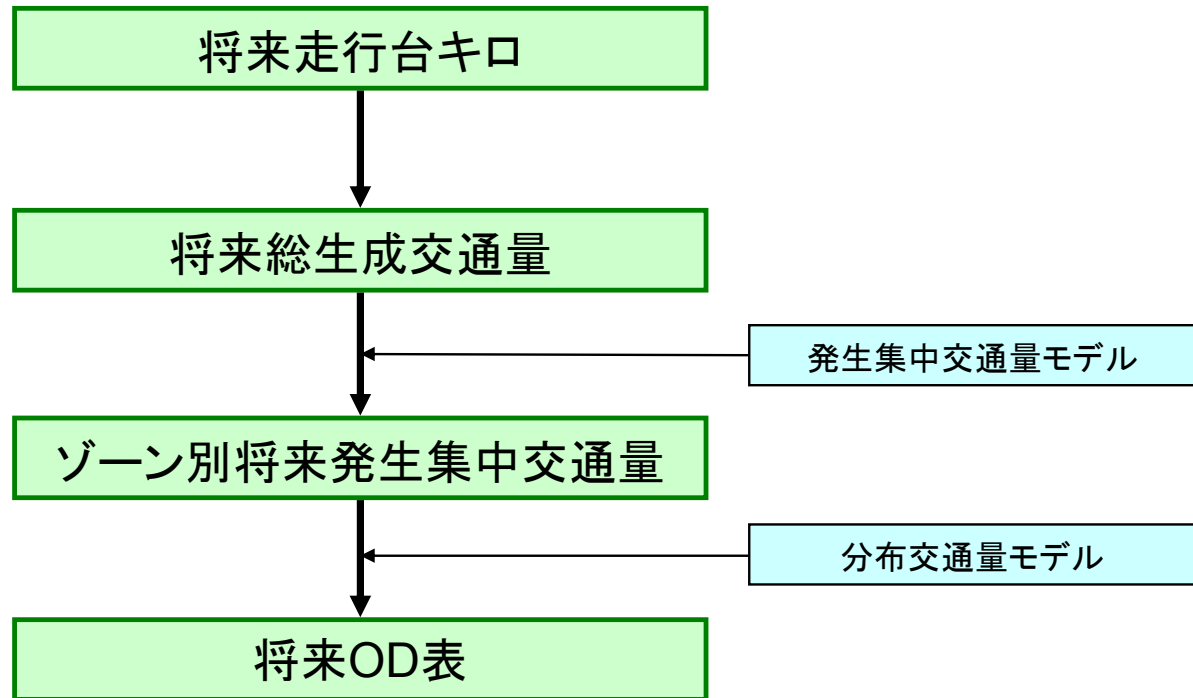


# 新たな将来交通需要推計のモデルについて ～ 将来OD表作成 ～

- 
1. 従来のOD表作成までの流れ
  2. OD表とは
  3. 新たな交通需要推計モデルの構築に向けた検討の進め方について
  4. 発生集中交通量モデル
  5. 分布交通量モデル
- 

平成20年10月21日（火）

# 1. 従来のOD表作成までの流れ

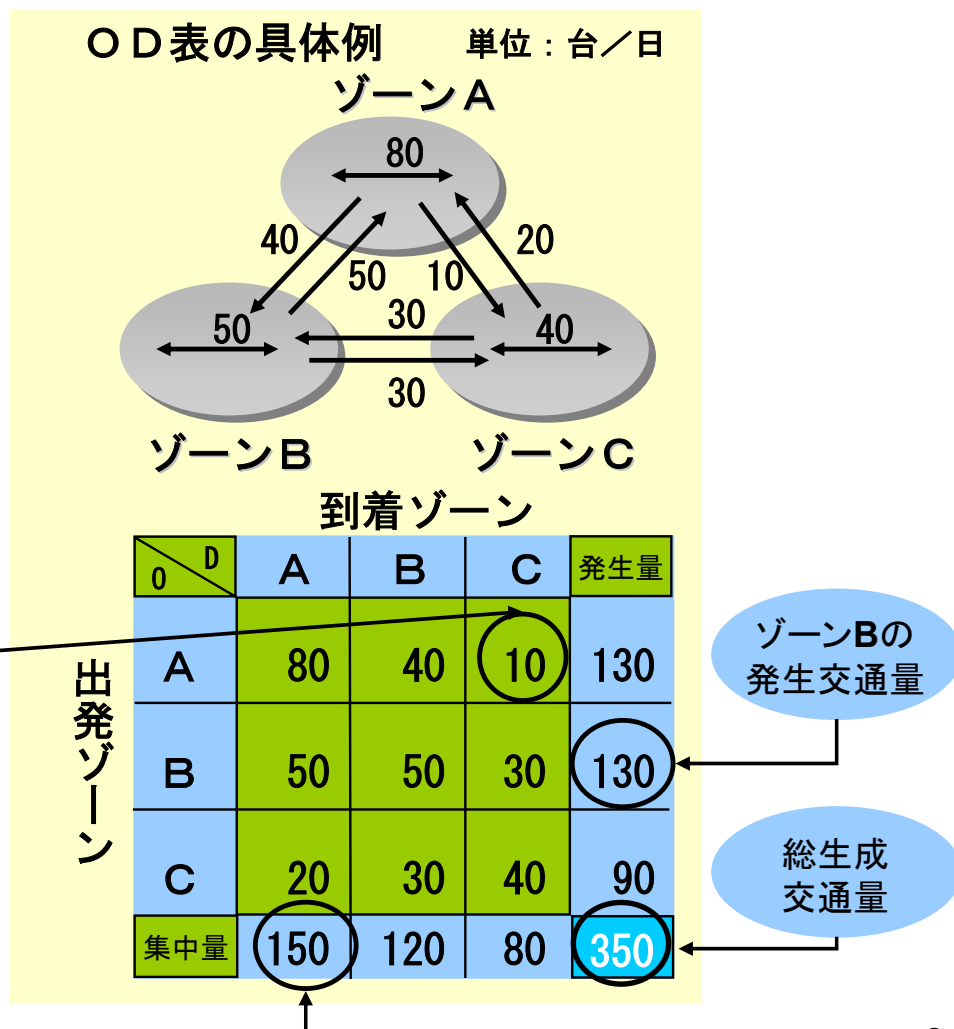


## 2. OD表とは

ゾーン間の交通の移動量を表(行列)形式で表現したものをいう。

例えば,

- A,B,Cの3ゾーン間を矢印のような量の交通が移動している。
- ゾーンAについては,  
Bに流れる交通量が40台  
Bから来る交通量が50台  
Aの中で完結する交通が80台
- この図を表の形に書き直したものがOD表であり,右下のようになる。



### 3. 新たな交通需要推計モデルの構築に向けた検討の進め方について

#### ■ 将来交通量予測のあり方に関する検討委員会報告書(平成16年3月)における指摘事項

##### ○ 将来発生集中交通量推計に関する検討

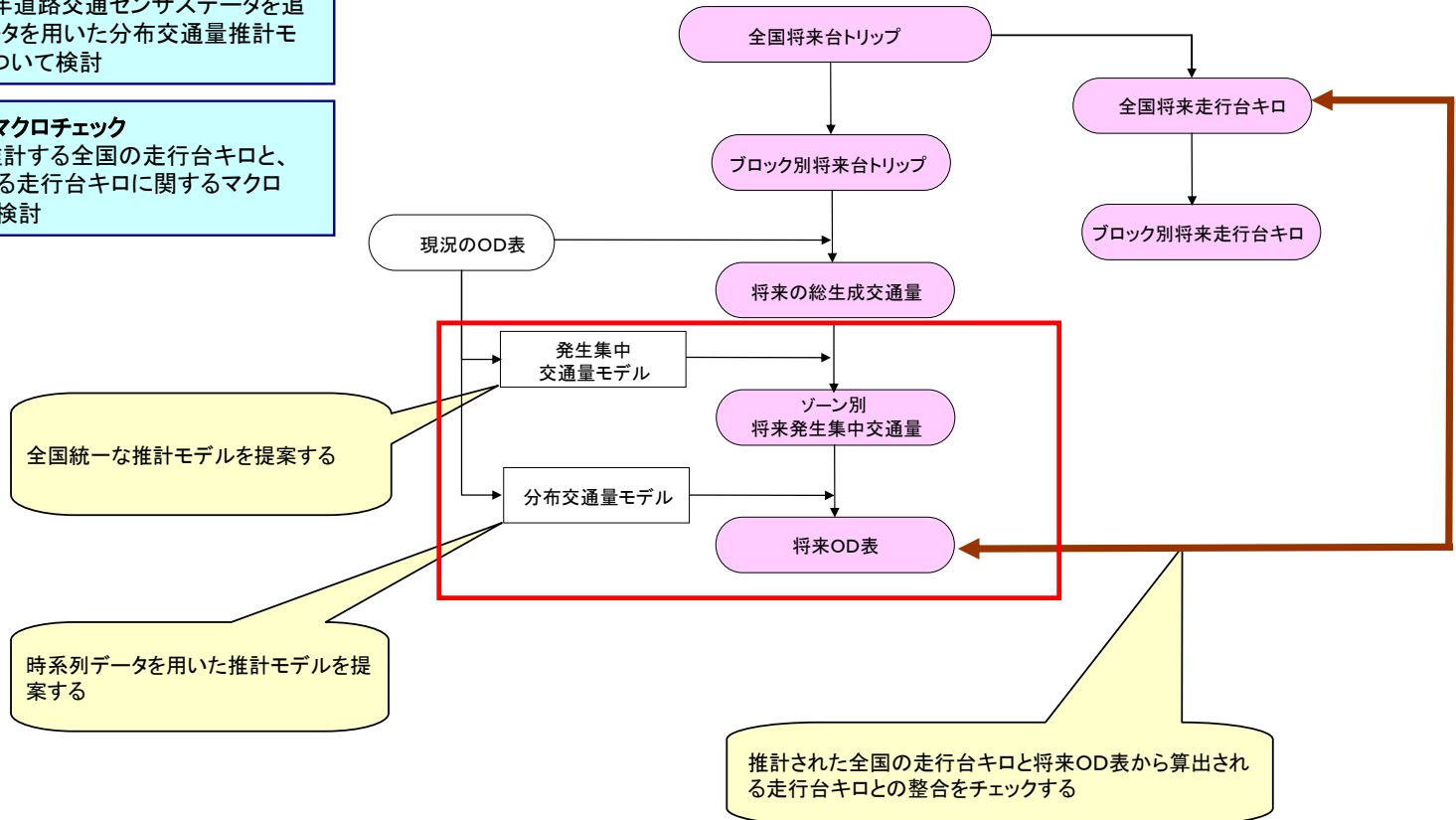
各地方整備局が実施する算定方法の統一化、説明変数の設定方法等のモデルの考え方について検討

##### ○ 将来OD交通量推計に関する検討

新たな平成17年道路交通センサデータを追加し、時系列データを用いた分布交通量推計モデルの考え方について検討

##### ○ 走行台キロのマクロチェック

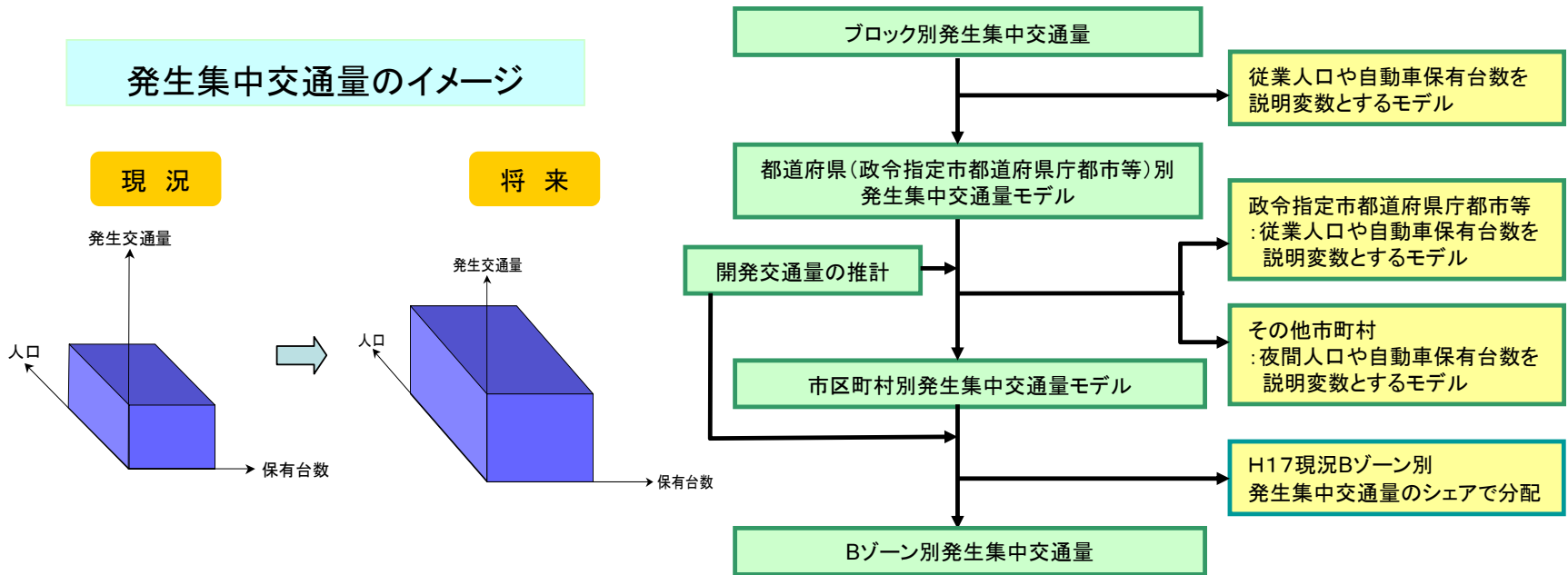
全国モデルで推計する全国の走行台キロと、OD表から得られる走行台キロに関するマクロチェックの実施を検討



## 4. 発生集中交通量モデル

- 各ゾーンにおける発生集中交通量は、人口や自動車保有台数との関係が強い。

### ●発生集中交通量モデルとブレークダウンの方法



#### (検討事項)

発生集中交通量モデルは、以下の推計モデルを検討することでよい。

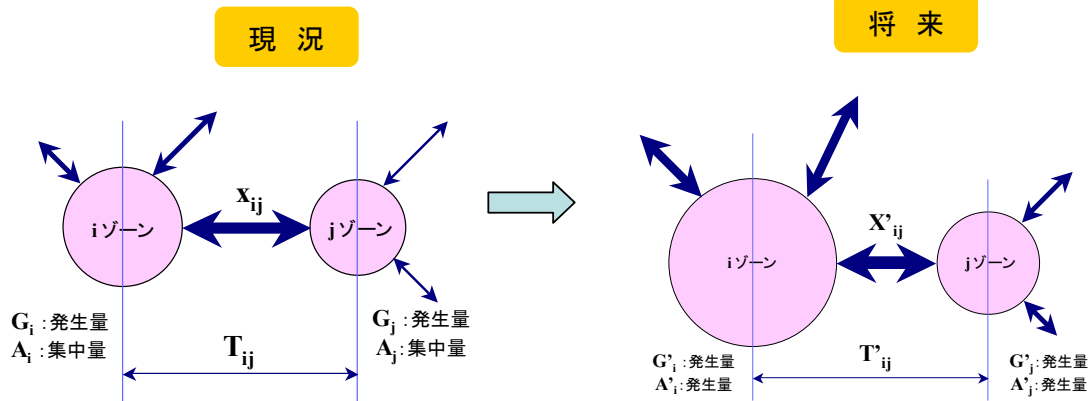
- 人口や自動車保有台数を説明変数とした回帰式を構築する。
- ブロック別発生集中交通量からBゾーン別発生集中交通量へのブレークダウンについて上図の通り行う。

## 5. 分布交通量モデル

### (1) 推計モデルについて

- ・分布交通量は、双方のゾーンの発生集中交通量及びゾーン間の時間距離との関係が強い。

#### 分布交通量のイメージ



(参考) グラビティモデルとは

グラビティモデルは別名を重力モデルといい、物理学における万有引力の法則を応用したもので、OD交通量は発生・集中交通量に比例し、ゾーン間距離に反比例するとしたもの。

#### (検討事項)

- ・分布交通量モデルについては、一般的に用いられているグラビティモデルをベースに、時系列のODデータを用いた推計モデルを検討することでよいか。

### (2) マクロチェックについて

#### (検討事項)

- ・推計された全国の走行台キロと、将来OD表から算出される走行台キロとの整合をチェックすることでよいか。